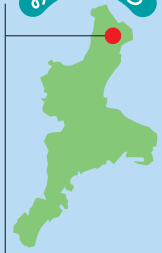
みえを歩こう



萬古焼のルーツを訪ねる

三重郡朝日町

柿～小向周辺

土鍋や急須などに代表される萬古焼は、三重県が誇るブランドの一つ。主な製造地は四日市市を中心とする地域で、「四日市萬古焼」が国の伝統工芸品、「桑名萬古焼」が県の伝統工芸品に指定されていますが、そのルーツとなる窯は、現在の朝日町内にありました。桑名の豪商・沼波弄山（1718～1777）が小向の名谷に築き、自らの作品に「萬古不易」の印を捺したことに始まります。

弄山亡き後、萬古焼は一度廃絶してしまいます。それを惜しんだのが、桑名の森有節（1808～1882）でした。有節は、再び名谷に窯を築き、見事に復興させたことから、「萬古焼中興の祖」と称されています。

今回は、萬古焼発祥と同時に復興の地でもある小向周辺を歩きます。すると、江戸時代の国学者・橘守部の誕生地や、由緒ある寺社など、多彩な歴史・文化遺産にも出合うことができました。

＊森有節の名は世襲制で4代まで続きますが、本文中では初代のみを紹介しています。

取材・文…中村真由美

■ 行程図　所要時間／約1時間30分 ※所要時間は、おおよその目安です。

START

JR「朝日」駅 →（約100m）→ 西光寺 →（約300m）→ 浄泉坊 →（約100m）→ 「橘守部誕生地遺跡」 →（約300m）→ 「橘守部翁生誕之地碑」 →（約30m）→ 「朝日町資料館」 →（約600m）→ 小向神社 →（約200m）→ 「有節萬古窯跡」「森有節之墓」 →（約600m）→ 「朝日町歴史博物館」 →（約300m）→ 柿城跡 →（約200m）→ JR「朝日」駅

東海道沿いに建つ名刹

今回の散策の起点は、JR「朝日」駅です。駅から南東へと延びる道を少し歩いたところで、目の前を道路が横切ります。この道は、かつての東海道で、江戸時代には焼き蛤売りの茶屋などが軒を連ねていたといいます。現在は静かな住宅地の中を続く東海道を北へ進むと、西光寺と浄泉坊で当時の賑わいを知るものに出合うことができました。まず、西光寺の本堂で見ることができたのは半鐘で、安永6（1777）年と刻まれていました。一方、浄泉坊は徳川家にゆかりのある桑名藩主の奥方の菩提寺だったといわれます。そのため、山門扉や屋根瓦などに徳川家の家紋である三ツ葉葵を入れることを許されていました。参勤交代の大名が門前を通る際には駕籠から降りて一礼したと伝わります。現在の本堂などは明治時代以降のものですが、山門前には以前の本堂に据えられていた大きな鬼瓦があり、威風堂々とした当時の姿を想像することができました。

西光寺と半鐘（小形の釣鐘）

浄泉坊

以前の本堂に据えられていた鬼瓦

国学者・橘守部誕生の地

浄泉坊を後にして東海道をさらに歩くと、整備された一画が見えてきました。案内板には「橘守部誕生地遺跡」と記されています。橘守部（1781～1849）は、江戸時代後期の国学者。国学とは『古事記』『日本書紀』『万葉集』などの古典研究から日本固有の文化や精神を理解しようとする学問のことで、県内では、本居宣長（1730～1801）や、谷川士清（1709～1776）がよく知られています。

小向に生まれた守部は、17歳で江戸に移り住みます。21歳の時に学問を志しますが、その真価を発揮するのは60歳を過ぎてから。『稜威道別』『稜威言別』など

「橘守部誕生地遺跡」（三重県指定史跡）

の代表作を著し、香川景樹・平田篤胤・伴信友とともに天保の国学四大家の一人に数えられるまでになりました。なお、同誕生地遺跡は朝日町役場の北西にあり、役場入口前には、功績を讃えた「橘守部翁生誕之地碑」がたたずんでいます。

役場の近くには、国の登録有形文化財の「朝日町資料館」（水・土曜日開館）もあります。大正5（1916）年に旧朝日村役場として建てられた後、昭和53（1978）年からは、町内の民俗資料を中心に展示する資料館としての役割を果たしています。

「橘守部翁生誕之地碑」

「朝日町資料館」

萬古焼復興の地から「朝日町歴史博物館」へ

同資料館の次は、方向を西へ変えて萬古焼ルーツの地をめざしますが、その前に立ち寄りたいのが、小向神社です。JR関西本線の踏切を渡り、北へ歩くと、深い緑に覆われた同神社が見えてきました。毎年8月には、裸の男たちが火の付いた松明でたたき合うという勇壮な「八王子祭り」が行われています。

小向神社

厳かな雰囲気の中、小向神社に参拝した後、少し南へと戻ると「名谷公園」という案内板に気が付きました。このあたり一帯の丘陵地が、名谷（山）と呼ばれたところ。平成16（2004）年、公園周囲で行われた範囲確認調査の結果、全長約17メートルの連房式登り窯と推定される遺構が確認されました。土瓶や水差しなどの遺物も出土し、「萬古」「有節」印が捺されたものも含まれていたことから、「有節萬古窯跡」として県の史跡に指定されました。現在、窯跡を紹介する案内

「名谷公園」

「森有節之墓」

板の傍らには、「森有節之墓」が移設され、萬古焼復興の地であることを物語ってくれています。

ところで、弄山が築いたという窯跡はどうなったのでしょうか。実は、翌年に少し離れた高台で、全長約13メートルの土壁造りの連房式登り窯や鍵穴状の小型丸窯などが発見されました。しかも、弄山の時代の「古萬古」と同時期に該当することも確認されました。

現在は、住宅地の一角に説明板が立つだけの「古萬古窯跡」ですが、その一部である鍵穴状の小型丸窯（複製）は、「朝日町歴史博物館」で間近に見ることができます。また、朝日町の歴史や文化財を一堂に集めて展示する館内では、有節の優れた作品を見ることもできます。展示内容は適宜変更されますが、この日は「腥臙脂釉龍文輪花鉢」と「菊花文急須」を見学できました。

「朝日町歴史博物館」外観

「朝日町歴史博物館」で、美しい「有節萬古」に魅了され、朝日町と萬古焼の歴史をおさらいした後は、終点のJR「朝日」駅へと戻りますが、途中で、柿城跡に寄り道してもよいでしょう。同城の城主は、戦国時代の豪族・沢木宗喜でしたが、弘治3（1557）年に近江の佐々木氏に滅ぼされています。現在、城跡には展望台があり、四日市港のコンビナート群などを眺望できました。

菊の盛絵も見事な「菊花文急須」

腥臙脂（鮮やかな桜色）が美しい「腥臙脂釉龍文輪花鉢」

問 朝日町役場　産業建設課
TEL 059-377-5658
「朝日町歴史博物館」
（月曜日・祝祭日・毎月末日休館）
TEL 059-377-6111

柿城跡に設置された展望台